

食品ロスの解決には・・・ ——人文社会講演会——

期 日:令和 6 年 6 月 6 日(木)13:30~15:35

場 所:本校至誠ホール

参加者:2 学年普通科文系・人文社会科学科生徒 62 名

1 学年探究科学科生徒 80 名 計 142 名



今回は日本女子大学家政学部家政経済学科教授 小林富雄先生に「食品ロスの経済学—Peripheral な Applied Science のすすめ—」と題して講演していただいた。

冒頭に文系研究の難しさを説明していただいた後、食品ロスの現状について学んだ。

世界では 8 億人以上の人が栄養不足に苦しんでいる中、年間 13 億 t もの食品ロスが生まれている。食品ロスと行っても、その中には輸送中の商品の見た目の劣化、大量の出荷キャンセル、食べ残しなど多くの種類があると初めて知った。また、今まで食品ロスは食品分野のみの問題だと考えていたが、日本の食品ロスへの施策パッケージは様々な省庁を横断するものであると聞き、様々な要因によって成り立っている食品ロスは解決が難しい問題であることが分かった。

後半ではまず、食品ロスが需給調整における品質リスク、在庫リスク、価格リスクを回避するために発生するというメカニズムを具体的な例とともにわかりやすく説明していただいた。

続いて、食品ロスに対して海外で行われている取り組みを教えていただいた。日本ではフードシェアやフードバンクなどの取り組みはあまり導入されていないが、ヨーロッパではそういった取り組みが進んでいることを教わった。この問題については日本人の「他人に冷たく身内にやさしい」という行動様式や、日本の法は義務を課すものであるのに対して欧米は権利を主張するものであるということが関係しているかもしれないと聞き、日本と西洋の考え方の違いが食品ロス対策にまで関わっていることに非常に驚いた。

食品ロスの削減に向けて私たちが行えることは限られているが、今後はより一層普段の生活の中から食品ロスを減らすためにできることに取り組んでいきたい。また、先生は最後に「中心だけでなく周辺から攻める」ということを言われた。私たちも物事に対して周辺的なアプローチという新しい視点からの取り組みを意識していきたいと強く思った。

